

令和元年6月28日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370751

研究課題名(和文) 上海地区の小中高の英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査－日本への提言

研究課題名(英文) An Overall Research on English Education & New Teachers' Training at Elementary and Junior High Schools in Shanghai, China

研究代表者

陸 君 (Lu, Jun)

京都文教大学・臨床心理学部・教授

研究者番号：40351374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：平成26年～29年度までの4年間、上海地区の小中4校に勤めている上海師範大学教員養成コース卒業した新人英語教員4人を追跡調査を行い、授業見学と新人研修に関するインタビュー、使用する教科書等で収集したデータを分析し、研究報告書でまとめ、学会の発表や論文掲載で報告をしました。

最後の一年間は、特にデータ分析に力を入れて上海で「4年間の現地追跡調査結果発表セミナー」を開催した。被調査対象の4教員の成長データ分析と英語教育の制度や現状分析を二本の研究発表を行い、その後4人の新人教員と長年現地調査協力員、教育実習担当の上海師範大学の銭先生との意見交換懇談会もした。次の研究調査に繋がるテーマを決めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本と中国において、英語教育は同じ外国語として小学校から実施されている。特に最近の日本は国際化の需要に追われ、英語教育は小学校3年生から行うことになった。中国も数年前から小学生から英語教育を導入され、都市部の小学校は一年生から始まった。しかし、国際的な英語試験の結果は大抵中国のレベルが上になっている。この原因を中国の英語教育の現状から追跡調査でデータ収集し、日本の英語教育改善に提案できる為に大学から小学校まで系統的に行ってきました。この4年間新人教員の授業と研修について調査したデータ分析は、日本と国外の学会や研究誌に成果を発表した。日本の英語教員養成や研修制度に少しでも貢献が出来たらと思う。

研究成果の概要(英文)：From 2014 to 2018, an Overall Research on English Education and New Teachers' Training at Elementary, Junior High Schools in Shanghai, China was conducted. During these four years every September, the research was done by following 4 new graduates from Shanghai Normal University, visiting their classes, having interviews about teaching experiences and training programs, checking the textbooks and education systems etc. Every year the collected data were analyzed and research results presentations were given at conferences both home and abroad. Last year, a reporting seminar was held in Shanghai Normal University to both 4 new teachers and their supervisor for teachers' internship in order to show them our gratitude for their 4 years' cooperation and our research results, also get their responses and advice. The seminar was fruitful and productive with faithful idea exchanges and instructive encouragement. A continuing research plan was decided and is going on from this year.

研究分野：アメリカ文学・日中の英語教育・諺比較

キーワード：英語教育 新人教員研修 小中学校英語教育 英語教育制度 小中の英語教育連携 中国と日本の比較 教員の英語力

1. 研究開始当初の背景

大学教養英語教育の効果についての日中比較を、科研費研究として平成17-19年度の3年間、上海地区7大学・日本国内4大学を対象に行った。この結果、(1) TOEFL得点の高さと大学4年間での伸び率は中国が日本を大きく引き離している事実、(2) 中国の大学英語教員の英語力(特に発音を含めた発話力)の高さ、(3) 中国学生の高い英語力向上への動機付けと授業内外での絶えまぬ努力、の3点が明らかになった。次いで、平成22~25年度の4年間は、上海師範大学の英語専攻の学生の入学から卒業までを縦断的に追跡し、英語圏への留学経験が無くとも高い英語運用能力を持つ教員をどのように養成しているのかを詳細に調査し、日本の英語教員養成への提言としてまとめた。

本研究代表者である陸は、中国で生まれ育ち、中国で英語教育を大学まで受け(専門は英文学)、6年間中国の大学で英語教員として教鞭をとった後日本の大学院で研究し、その後約20年間日本の大学で英語教育に従事してきた。日中両国の大学レベルの英語教育に精通する希少な体験を持つ教育者・研究者である陸は、日本において英語教育は熱心であるにもかかわらず、あまり向上しない日本人の英語力に疑問を持ったのが本研究の原点である。幸い未だに上海地区数大学の師範大学及び総合大学の外国語学部部長や英語科主任教員と懇意であり、通常部外者が立ち入ることが難しい施設見学や、教員・学生から遠慮なく話が聞ける場の設定等が可能であり、過去2回の科研費研究ではそのつてが非常に大きな役割を果たした。一方、研究分担者の田浦は日本で生まれ育ったが、修士・博士教育(応用言語学専攻)は豪州で受け、日本の中高で17年勤務後、現在は立命館大学で応用言語学と英語教育学に関する講義を担当している。中学から大学教育までの連続体としての日本の英語教育現場の問題点をつぶさに目の当たりにしてきた経験と、自らが大学時代に教員養成課程を出た経験を本研究に生かしながら、第2言語習得論と英語教育学の専門家として、本研究のリサーチデザイン・データ収集法・統計処理を専ら担当する計画である。このように、2研究者が相互補完的な仕事をする事で、上記科研費基盤研究(C)を7年間共同で進めてきた。

上海地区は大学入試も全国統一試験を用いずに独自のテストを受験生に課している。当然、全国統一試験よりもはるかに高いレベルの試験が課されている。国際都市としての環境の中で小学1年生から英語教育を受け、大学までの公教育での教育を通し、理系文系の別に関わらずかなりの英語運用力を付けて社会にでる。英語教員を目指す者は、教員養成課程で更にハードなトレーニングを受けて確固たる英語力を身につけた後、非常に厳格な試験を何度も経て漸く教壇に立つ。英語力が高収入に直結する上海では学習動機が高く、そのまま日本との比較が困難な部分もある。ただし、各段階で厳格な試験を課し、容赦なく不合格者を出す厳しさ故に、幾多の関門をくぐり抜けて卒業した者の多くは非常に高いレベルの英語力を付けている。

上海地区の大学一般教養英語の授業を3年間調査した後、教員を目指す英語教員養成課程の4年間のトレーニングの実態調査を4年間、2度の科研費基盤研究(C)で調査した。大学1・2年生修了時に課せられている英語バンドテストが、大学英語教員の教授内容と方法を方向づけ、大学生の学習動機を高め、実際に大学在学中に英語力向上もTOEFL模擬テストの得点を通して確認できた。

2. 研究の目的

中国の中で飛び抜けた英語教育を行っている上海地区の小・中・高校での英語教員研修現場の観察とカリキュラムの精査を通して、日本の英語教員研修への還元を目的とする研究である。研究代表者と分担者は2度の科研費基盤研究(C)として、平成17~19年度は上海地区の大学教養英語教育を、平成22~25年度は上海での英語教員養成システムを調査した。高い英語力を備えた教員が同じ教科書を用いた共通テスト方式で大学教養英語教育に携わっていることと、高い英語力を備えた教員の養成が学部でしっかりと行われていることが調査から判明した。これらの調査の延長線上に、(1)上海の英語教育現場(小学校~高等学校)の授業形式と(2)新人教員の教

育実践と成長を横断的に観察し、日本の英語教育に提言する計画である。

3. 研究の方法

平成17年度以降毎年大学教養・英語専門授業と教育実習見学の許可を、上海師範大学・外国語学部の蔡龍権学部長から頂いてきた。その間、信頼関係を構築でき、蔡学部長と金輝副学部長からは直接本申請内容に対する内諾を既に得ているので、附属小学校・中高校及び上海地区の他の学校の授業見学・生徒及び教員からの聞き取り調査をすぐに行える準備が整っていた。平成26年から4年間新学期の9月に定点観測を上海地区の小中校で行う。具体的には2014年9月に新任教員として現場に赴任する英語教員を蔡学部長から推薦を受け、4年間の追跡調査を授業見学・本人及び教頭との面談を通し、新任教員の成長とサポートシステムを調査する。同時に小中校でのカリキュラムを入手し、新任教員の授業を見学し、聞き取り調査も行き、日本の小中学校英語教育に取り入れられる項目も整理する。

4年間の大まかな研究計画は以下の通りであった。

[平成26年]事前連絡調整と1回目のデータ収集

・4月～8月：現地調査の対象となる上海地区の小・中高校での調査時期と調査対象教員に関して、上海師範大学・外国語学部の学部長らと連絡を取る。

・9月：上海闸北区第一中心小学校・上海第四中学校・上海七宝高等学校で、教員生活1年目の英語教師の授業を見学及び本人・指導教員（教務部長と教頭）との面接を行う。小中学生については昼休み時間が放課後に学校の許可を得て授業についての感想を座談会形式で聞き取り調査する。同時に各調査対象校の英語カリキュラム及び新任教員の研修体制に関する情報を得る。可能であれば新任教員の研修の見学も行う。

・10月～平成27年3月：現地調査で得たデータをまとめ、不明事項については新任教員宛にメールを使って質問し、平成27年特に注視すべき項目を洗い出しておく。

[平成27年]1年目の報告書作成と2回目のデータ収集

・4月～8月：1年目の調査結果をまとめて上海師範大学・外国語学部長らに報告し、2年目の調査目的を伝え、9月の調査依頼を行う。・9月：前年度と同じ場所で同じ対象の現地調査をする。

・10月～平成28年3月：現地調査で得たデータをまとめ、不明事項についてはメールを使って質問し、平成28年特に注視すべき項目を洗い出しておく。

[平成28年]2年目の報告書作成と3回目のデータ収集

・4月～8月：2年目の調査結果をまとめて上海師範大学・外国語学部長らに報告し、3年目の調査目的を伝え、9月の調査依頼を行う。・9月：前年度と同じ場所で同じ対象の現地調査をする

・10月～平成29年3月：現地調査で得たデータをまとめ、不明事項についてはメールを使って質問し、平成29年特に注視すべき項目を洗い出しておく。

[平成29年]3年目の報告書作成と第4回目のデータ収集及び4年間の総括

・4月～8月：3年目の調査結果をまとめて上海師範大学・外国語学部の学部長らに報告し、4年目の研究方法を伝え、9月ではなく年度末の3月に、現地調査の分析結果を報告会開くことの依頼を行う。・9月：3月に、現地調査の分析結果報告会を開催するに関する上海入りで、協力者達との確認を行う。・10月～平成30年2月：現地調査で得た4回分のデータをまとめ、内容に誤りがないかを当事者に確認をとってもらう。

・平成30年3月：報告書を完成させて、協力教員及び上海師範大学に送付した上で、被調査の新任教員4名及び師範大の学部長や協力先生の前で報告会を開催し、みんなとの意見交流も行う。

4. 研究成果

本研究目的は、英語教育に関して中国で最も優れている上海地区の小、中学校までの教育現場における授業内容形式の調査と、新人英語教員の成長を縦断的に追跡することである。初年度は、

小学校で英語教員として赴任初年度の教員1人と3年目の教員1人、中学校で英語教員として赴任して3年目の教員2人の合計4人の授業見学と詳細なインタビューを行うことができた。授業のビデオデータとインタビューの書き起こしデータを今後の縦断研究のベースラインデータとして用いる予定であるので、当初の計画通り量的にも質的にも十分なデータを収集出来た。具体的な調査は以下のように行った。(学生の就職先の関係で、上の研究方法に予定された調査校とは変更がある。)

2014年9月15日(月) 上海師範大学へ：外国語学院の金副院長とト(Bu)副院長に挨拶、4年間の新たな研究計画や現地調査開始の協力要請；教育実習担当・銭准教授との打ち合わせ等をした。

16日(火) 午前：(私立)上海市進才実験小学校にて、師範大英語師範専攻卒・教歴3年目の蒋先生(女・24才、2012.9新任の2目の教員。上海師範大学卒業時BAND test8級合格)の4年生の授業を見学； 午後：(小中一貫公立)黄浦区教師進修学院附属中山学校にて、師範大英語師範専攻卒、教歴3年目の徐先生(女24才)の7年生の授業を見学 17日(水) (半官半民)上海市大寧国際小学校にて、教員1年目の季先生(女24才)の4年生の授業見学。(昨年は彼女の授業研修だけのインターンシップ授業も見学した) 18日(木) (公立)敬業初等中学にて、師範大英語師範専攻卒、教歴3年目の湯先生(男25才)の授業を見学。4人の授業見学後、それぞれに新人研修や成長過程に関してインタビューをした、一年目のデータ収集をした。

2015年10月に、同じ小中学校へ4人の新人教員の追跡調査を行った。 10.12(月)午前：授業見学@上海市黄浦区教育学院・附属中山学校(小中一貫公立高校)8年(中2：徐先生(女性25歳、4年目の先生)中の下レベル(男6女9合計15人)6年生時からの持ち上がりで現在HRとなっているクラスでの授業。 午後2:05-2:45授業見学@(公立)敬業初等中学8年(湯先生、男性26歳)男11女6合計17人の昨年からの持ち上がりクラス。去年担任だったが今年は授業担当だけで担任を外れた。学校の方針で若いので授業専心の為。教員4年目) 10.13(火) 8:20-9:00@(半官半民)上海市大寧国際小学校2年授業見学(男11女12=23人)季先生(女性2年目。教育実習時も撮影・internの1年間無し・教員1年目撮影を昨年)昨年は4年生の授業見学であったが今年は小学2年生の授業を見学した。35分授業 1:45-2:25@(上海市進才実験小学校・蒋先生(女性25歳)。昨年は1年生の授業見学であったが今年は小学2年生の授業を見学した。35分授業。男23人/女15人=38人クラス。授業開始直後騒がしかったのでかなり子供達を叱りつけてから授業開始。2年生は週に4回の英語の授業がある。授業後インタビューで懇談した。

2016年9月12日から18日まで上海現地縦断調査(3年目)を実行した。(私立)上海市進才実験小学校にて、師範大英語師範専攻卒・教歴5年目の蒋(女・26才)先生の4年生の授業を見学；

午後：(公立)上海敬業初等中学にて、師範大英語師範専攻卒教歴5年目の湯先生(男27才)の授業を見学し 9月13日(火) 午前：(小中一貫公立)黄浦区教師進修学院附属中山学校にて、師範大英語師範専攻卒、教歴5年目の徐先生(女26才)の7年生の授業を見学。 午後：(半官半民)上海市大寧国際小学校にて、教員3年目の季先生(女26才)の3年生の授業見学し、新人研修や成長過程に関してインタビューした。

全体的な印象： PPT主導の英語クラス運営はレベルが高くなり、生徒の名前もしっかり覚えて回答指名に全体的に気配りもあり、バランスよく授業目的が達せたと見られた。生徒中心の授業が落ち着いて、楽しいそうに感じられた。授業はいつものNative English並の英語で行われ、生徒とのコミュニケーションもとてもスムーズに進んでいた。

2017年3月24日(金)から再び上海出張し、上海師範大学外国語学院・英語教員兼英語教育実習担当・銭准教授と再び打ち合わせを行った。前年度の(2016.9)現地追跡調査結果の報告書や撮影した新人教員4人の授業観察ビデオや音声記録を渡し、今年度(2018年2月から)の最終調査計画についても話し合いをした。次年度(2018年から)の科研費申請に「上海の教育機関により英語新人教員研修現状」についての調査可能性を確認し、このテーマで継続的に現地の縦断調査を行うことも決めた。8年間も協力して頂いた銭先生を日本に招き、日本の小学校英語教育や教育大学での教員養成を見学し、共に比較論文を書き、国際学会にて発表する予定も合意した。

2017年7月3日～10日まで、上海現地調査に8年間も協力して頂いた上海師範大学の銭先生を日本に招き、金沢大学の附属小学校の英語活動授業や京都教育大学の英語教員養成授業を見学し、京都文教大学にて「英語の発音はどう練習して綺麗になるのか？」をテーマに講演も行った。また日本訪問の印象を研究代表者陸の論文に寄稿した。

9月14日～20日まで、29年度3月に実施予定の最終年度科研調査報告会に関して、現地担当者との打ち合わせを行った。30年度科研費申請「上海の2つ教育学院にて英語教員研修現場と英語教育現状」の可能性に関して下調べも実施した。また地方都市である「無錫の英語教育」について江南大学教育学部の蒋明宏教授とも懇談し、データ収集を行った。

2018年3月7日～13日、申請した次年度(30年度から)科研費調査の事前準備の為に、上海の二大教員養成教育学院である、閔行区、黄浦区教育学院へ訪問し、英語教員研修制度と英語教育現状、または来年度からの調査計画について、研究員の先生らと意見交換をした。3月10日(土)、上海師範大学の外国語学部にて「4年間の科研費より、上海の小、中学校の英語教育縦断調査の報告会」を開催した。研究代表者として全体のまとめ、共同研究者のデータ分析、現地協力者の言葉三本で発表し、最後は被調査者(4人の新人教員)から報告会に対しての感想、全体の意見交換をした。(私立)上海市進才実験小学校、師範大英語師範専攻卒・教歴6年目の蒋(女・27才)先生；(公立)上海敬業初级中学、師範大英語師範専攻卒、教歴6年目の湯先生(男28才)；

上海市大寧国際小学校の教員4年目の季先生(女27才)；人目の徐先生が欠席。報告会の発表内容は科研費の報告書を作り、結果を論文にして学会や大学誌に寄稿した。

平成26年～29年度までの4年間にわたって、上海地区の小中高4校に勤務する上海師範大学教員養成コースを卒業した新人英語教員4名の追跡調査を行い、授業見学、インタビュー、教科書等で収集したデータを分析し、研究報告書等でまとめ、学会の発表や論文掲載で報告しました。最後の一年間は、特にデータ分析に力を入れて、まとめた研究成果を調査対象教員の卒業校である上海師範大学で「4年間の現地追跡調査結果発表会」を開催した。被調査対象の4人の英語新人教員の成長データ分析と英語教育の制度や現状分析を二本の研究発表を行い、その後4人の新人教員と長年現地調査協力員、教育実習担当の上海師範大学の銭先生達との意見交換懇談会により、次の継続現地調査に繋がるテーマを決めた。現地調査の成果発表セミナー-データも今年3月に科研費報告書として印刷され、関連ある学者達に情報交換資料として配付した。

日本と中国において、英語教育は同じ外国語として小学校から実施されている。特に最近の日本は国際化の需要に追われ、英語教育は小学校3年生から行うことになった。中国も数年前から小学生から英語教育を導入され、都市部は小学校一年生から始まった。しかし、国際的な英語試験の結果は大抵中国のレベルが上になっている。この原因を中国の英語教育の現状を追跡調査でデータ収集し、日本の英語教育改善に提案できる為に大学から小学校まで系統的に行ってきました。特にこの4年間の英語新人教員研修について調査したデータ分析は、日本と国外の学会や研究誌に成果を発表した。日本の英語教員養成や研修制度に少しでも貢献ができたらと思う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

陸 君

Extracurricular English Study through ALC Net Academy 2 & the Results

(ALC Net Academy 2 による授業外英語学習の動機づけと、その効果) 共著 (2015)

平成27年3月 人間学研究 Vol.15 (京都文教大学人間学研究所)

「中国と日本における小中学校の英語教育と大学での英語教員養成の比較 その 」(2017)

Human Studies, 18, Kyoto Bunkyo University. 査読あり 単著

平成29年3月 人間学研究 Vol.17 (京都文教大学人間学研究所)

田浦 秀幸

英語勉強法の脳科学・中学英語でやさしく話す 2018年 プレジデント

覚えが悪いのにはワケがある：英語勉強法の脳科学 2018年 プレジデント

Translanguaging: Language, Bilingualism and Education (書評) 2017年 多言語多文化研究

〔学会発表〕(計4件)

陸 君

English Teachers' Training for Elementary School Level between Japan & China
16th Annual Hawaii International Conference on Education, January 5-8, 2018

田浦 秀幸

「シドニーでのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て」 国際交流基金 New South Wales
大学共催「日本語教育シンポジウム」での基調講演(招待講演) 2017, シドニー国際交流基金

「ロンドンでのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て」 立命館英国事務所主催 2017

「第2言語習得開始年齢と脳内コネクトーム」 立命館大学 2017年度第5回認知科学研究センター研究紹介, 2018

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：田浦 秀幸

ローマ字氏名：TAURA, Hideyuki

所属研究機関名：立命館大学

部局名：言語教育情報研究科

職名：教授

研究者番号(8桁)：40313738

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。